

授 業 概 要

(介護福祉学科)

科目名		授業の種類	授業担当者
生活文化論		講義	笛木 泰子
実務経験	あり なし		
介護福祉施設での勤務の経験を通して、生活文化論を教授する。			
授業回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
30回	60時間（4単位）	1年生・前期	選択科目
[授業の目的・ねらい]			
介護福祉士としての生活文化理解と共感ができる。介護を必要とする人を理解する。			
[授業全体の内容の概要]			
グループワークや課題などを通して、身近な歴史について理解すると同時に、高齢者の方々が昔はどのような苦労をされていたのか理解をする。			
[授業終了時の達成課題（到達目標）]			
高齢者の方の苦労を理解することにより、共感的態度を得る。また、時代的背景を理解することにより、介護福祉士としての知識を高める。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			
コマ数			
1 オリエンテーション			
2～4 新潟の歴史を学ぶ			
5. 6 みなとびあ見学（高齢者の基本的理解）			
7 みなとびあ見学のまとめ			
8. 9 高齢者への昔の生活インタビュー（尊厳を支える介護）			
10.11 高齢者インタビュー 発表			
12.13 戦時中の生活について（高齢者の基本的理解）			
14.15 郷土料理と戦争中の食事について（高齢者の基本的理解）			
16.17 郷土料理の試食			
18～22 回想法について			
23～27 日本の行事について			
28.29 昔の遊び（グループワーク）			
30 まとめ			
[使用テキスト・参考文献]		[単位認定の方法及び基準]	
・日本民族学 福田アジオ他		・提出物、試験によって評価	
出版社名 吉川弘分館			

授 業 概 要

科目名 人間の尊厳と自立		授業の種類 講義	授業担当者 橋本 瑞江
実務経験 あり なし 介護福祉施設での勤務の経験を通して、人間の尊厳と自立を教授する。			
授業回数 15回	時間数（単位数） 30時間（2単位）	配当学年・時期 1学年・後期	必修・選択 必修科目
[授業の目的・ねらい] 「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養うことを目的・ねらいとする。 [授業全体の内容の概要] ①生活支援の重要な方法として、介護における生活支援技術があるが、その中で人間の尊厳と自立がどのように生かされているかを具体的な生活場面の事例をもとに、高齢者や障害を有する人々の尊厳の保持と自立について基本となる考え方を学ぶ。 ②個人の権利としての人権を理解した上で、利用者の権利侵害の背景や権利擁護、また利用者の自立のあり方について考え、事例を通じて、介護における尊厳保持と自立支援をみていく。 [授業終了時の達成課題（到達目標）] ①人々の尊厳と自立について基本的な考え方を理解できる。 ②利用者の権利擁護と介護における自立支援について ICF の考え方をもとに理解できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法] コマ数 1 オリエンテーション（人間の尊厳とは何か考える） 2 人間を理解すること・自立の意義 3 自立と自律・人間の尊厳と自立 4 尊厳と自立をめぐる歴史と仕組み 5 人間の尊厳と自立に関する諸規定 6 復習 7 人間の尊厳・自立と生活 8 介護における権利擁護と人権尊重 9 利用者の権利侵害が起こる状況 10 権利侵害の背景と利用者への権利擁護 11 介護における自立支援 12 復習 13 ICF・自立への意欲と動機づけ 14 介護における尊厳の保持・自立支援 15 まとめ			
[使用テキスト・参考文献] ・日本介護福祉士養成施設協会編『介護福祉士養成テキスト第1巻 人間の尊厳と自立』法律文化社		[単位認定の方法及び基準] ・参加態度、確認試験、試験によって総合的に評価	